□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 高　　松 ※
日付	平成17年3月18日
評価機関名	有限会社 アウルメディカルサービス
■評価調査員	薬剤師・介護支援専門員 痴呆介護経験８年、障害者、老人介護支援

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評　■全体を通して（特に良いと思われる点など）

田園の中に位置し、広々とした景観の中にある平屋建てのホームである。

隣接の老健施設にはアメリカで訓練を受けてきた4匹のセラピードック（ハスキー犬、柴犬、マルチーズなど）が飼育されている。

入居者にとてもなつき、一緒に散歩にも出掛けていて精神の安定や機能の維持にも役立っている。

ご家族に、出来るだけ頻繁に訪問をしてもらえるよう、便りによる近況報告や、利用料持参払いのお願いをするなどの工夫をされている。

介護計画を立てる際にも、ご家族との話し合いをしっかり行い、意見や要望を取り入れている。

夜間の排泄なども、ご家族の希望を尊重し、しっかり睡眠をとってもらいたい場合はおしめやパットも用いている。

昔のなじみの場所へ連れて行ってあげてほしいとの要望もあり、外出は頻繁に行われている。

職員は、入居者個人個人に合わせて言葉などを適切に選んで会話している。自分で出来る事はしっかりやってもらえるよう、さりげない声かけが出来ている。

■改善の余地があると思われる点

３ユニットそれぞれが別の家のようであまり交流は無いようである。行事などはユニットごとで個別に実施している。もっと交流を図られてはいかがであろうか。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　■グループホームとしてめざしているものは何か

「生きがいの探求」「生きがいの創造」を理念に、在宅よりも質の高い生活をめざしている。

家族からの希望があれば、医師と相談した上で終末期への対応も視野にいれている。生活面はしっかりみる。医療の面でも職員に看護師を採用するなど家族の心配を軽減しようと取組んでいる。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　■入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

ホームの玄関は日中、いつも開いている。出入りは自由になっている。見守りを重視し、行動の制限をしないよう努めている。

また、入居者の意思を尊重し、本人が「いや」と言えば、それ以上は無理強いしないようにしている。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　■一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

畑には季節の野菜が栽培されている。農業をやっていた入居者が、職員と共に草取りをし、種をまいたものである。職員は切干大根などの作り方も教わる。入居者は、掃除や洗濯、食事の片付けなども自発的に行うが、職員の声かけは自然な形で行われている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　■サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

職員のレベルアップのため、関連施設の職員と共にいろいろな研修をしている。入居時にしっかり情報を集め、居室の配置や転倒などの危険性を低めるのに生かそうとしている。

入居者がベッドから降りた場所に体重がかかると、ブザーが鳴る装置を職員の手作りで作るなど、居室での転倒防止に努めている。